

5 よくある質問 Q&A

初めての保育現場で、わからないことがたくさんあるのはみんな同じです。先輩保育者に、新任の時困ったこと、知りたかったことをインタビューしました。ここに挙げた以外にも、知りたいこと、わからないことは、遠慮せず先輩や幼児教育センターアドバイザーに頼ってくださいね。

子どもとの関わり方

Q. 手洗いうがいやトイレの仕方、着替えなど生活習慣の教え方について

A. 子どもが手洗いうがいなどをしているときに一緒に行ったり、「さっぱりしたね」「きれいになったね」など、言葉で伝えたり、やろうとする姿を褒めたりしながら、少しずつ身につくようにしましょう。子ども自身が“手を洗って気持ちいい”という必要感を感じる事が大切です。また生活習慣の定着には発達差や家庭背景など個人差がありますので、個に応じた丁寧な指導を心がけましょう。

Q. 子ども同士のいざこざが起こったときの関わり方について、どちらの気持ちも聞いたうえでどう関わればよいのか。

A. 年齢によって異なりますが、まずは、双方の思いを丁寧に聞き、「〇〇が悲しかったんだね」など共感し、個々の思いを受け止めたうえで、相手の気持ちや思いが伝わるように保育者が仲立ちをします。年齢が低ければ「嫌だったんだって。これからやめようね。」などと保育者が伝える場合もあります。年齢が高ければ、互いに「どうすればよかったのか？」を子どもが考え解決策を見つけ出せるように導いていけるとよいでしょう。

Q. 保護者と離れがたい子どもへの関わり方

A. ケースバイケースですが、お家の人と一緒にいたい子どもの気持ちをまずは否定せず受け止めましょう。
「(保護者に)ギュッとしてもらったらバイバイしようね。」「時計の長い針が★になったら(保護者に)帰ってもらおうね。」など、保護者と離れるタイミングを子ども自身が見通しをもてるようにすることで納得して離れられる場合もあります。(それでも離れられない時もあります)

子どもの思いと反して離れさせた場合は、少しずつ気持ちを切り替え遊びだせるように、個別に関わりながら、友達や遊びの様子を一緒に見たりします。
また保護者が安心するよう、保育中の様子(別れ際は泣いていましたが、すぐ【〇〇時ごろには】泣き止んで、◎◎を楽しんでいましたよ。 など)をこまめに伝えることも心がけるとよいでしょう。

保育の視点

Q. 先輩保育者に「ここをお願いね。」と声をかけられた時に、どのように子どもを見ればいいのか分からない。子どもを見る視点や、つき方などを具体的に教えてほしい。

A. ケースバイケースであることが多いので、まずは子どもと遊びながら

◎その場に危険なもの・ことはないか

◎子ども同士の関わりはどうか

◎道具や遊具、材料などの量は適切かなどの観点をもって見てみましょう。そこで気づいたことやわからないことがあれば、近くの先輩に聞き、指示を仰ぎましょう。

Q. 保育室の環境の作り方(保育の環境作りがわからない)

A. 各施設の教育課程や保育の全体計画をもとに、子どもの遊びや興味関心、生活している姿、動線などを考えて作っていきます。とはいえ、最初は難しいと思いますので、それぞれの環境の意図など(何故それをその場所に用意するのか、子どもにとってどのような学びがあるのかなど)先輩に教えてもらいながら構成していきましょう。

「本ガイド 4 保育環境の構成」のページや「伊丹市保育環境構成のてびき」も、ぜひ参考にしてくださいね。伊丹市の公立施設では、1年目や若手の職員対象に、他施設の環境を見て意見交換などをして学ぶ研修の機会もあります。

Q. 伊丹市の主体性を大切にする保育においての子どもへの接し方、誘いかけの仕方、どのように見守るかが難しい。

A. まずは、子どもと共に遊びながら、一人一人が何をしたいのか、どのようなことを感じ・考えているのかを見取るとともに、「楽しい」と思っていることを一緒に楽しむこと、子どもと同じ目線でかかわることを意識しましょう。その中で子どもの心情

を感じ、共感したり受けとめたりしようとする保育者の受容的・応答的な姿勢が大切です。また、身近な先輩が子どもにどのように接しているか、言葉かけや態度をよく見て「いいな」と思うところを学んでいきましょう。

職務全般・先輩職員との関わり方

Q. 園のどこに何があるのか、もしくはない物なのかがわからず、どの程度を自分で準備すべきなのか戸惑った。

A. 園にあるもの、ない物を一度に把握することは無理ですので、必要な時にめぼしいところを探します。探してもなければ先輩に尋ねるようにしましょう。

1年経過すると、大体の保管場所がわかるようになると思います。

どの程度を自分で準備すべきかについては、係や分担がある、個々であるなど内容によって異なりますが、わからない時は、必要な物、数など準備物や置き場所がある程度自分で考えてみて、先輩に確認、尋ねるなどするとよいでしょう。

Q. 保育全般だが、特に事務については優先順位を教えてほしい。見通しが立たないので『いつまでにこれを終わらせる』という具体的なスケジュールやこれが最優先の仕事などを知っておきたい。

A. 直近のことでない場合は、いったん自分でわからないこと、不安なことをリストアップしておき、先輩職員に聞ける時間を作ってもらいましょう。

特に初年度は戸惑うことも多いと思います。2年目以降は経験を積んだ分、わかるようになっていくので大丈夫です。

Q. 「何でも聞いてね」と言われたが、何を聞いていいかさえわからない。目の前のことをこなすのに必死で、先の見通しがもちにくかった。

A. 日々初めてのことが多くある中で、わからないことがわからない時には、周りの先輩の動きをよく見て真似たり、早めに自分から「何をしたらいいですか?」と尋ねたりすることを心がけましょう。

またわからないこと、聞きたいことはその都度メモしておき、保育後などに見直して聞きたいことをまとめておくのも一つの方法です。

Q.同じことを聞いても先生によって回答が異なった時にどうすればよいのか。

A. 保育に唯一の正解はなく、また聞いた先輩保育者の立場(担任・フリー・にじいろ担当者など)や保育観も様々ですので、回答が異なることもあります。聞いたことが子どもに関することであれば、もらったアドバイスをもとに、子どもの個性や発達、自分との関係性などを踏まえて自分はこうしよう、と考えられるとよいですね。

Q.自分で考えるべきことと誰かに聞くべきことの線引きが難しかった。

A. わからないことでも、まずはできるだけ自分で一度考えてみることを心がけましょう。自分の意見を付け加えながら質問することで、より聞きたいことが伝わりやすくなり、具体的なアドバイスをもらえることにもつながります。ただ、ケースバイケースですので、全くわからない、考えが浮かばない時には、早めに先輩に尋ねることも大切です。

Q.自分の担当(園務分掌など)の仕事内容がよく分かっていなかった。

A. 昨年までの担当のファイルや申し送り事項があるはずですので、目を通しておくとういでしょう。昨年度担当の職員がいれば自分から聞いて教えてもらいましょう。

配慮を要する子どもとの関わり方

Q. にじいろ対象児(配慮を要する子ども)との関わり方について

A. 子ども、場面、環境などによって関わり方は異なりますが、基本的には子どもの思いや気持ちに寄り添った関わりを心掛けるようにします。その子の好きなことや興味のあることを探り、一緒に楽しみながらその子のよさを伸ばすという関わり方はすべての子どもに対して共通です。

また一見、集団生活において「困った行動」をするように見えることもありますが、目に見える行動や現象ばかりにとらわれず、なぜそのような行動をするのか、その子の内面や思いを知ろう、理解しようとする保育者の姿勢が大切です。その子の思いをくみ取り「◎◎なんだね。」と共感したり、「○○したいの？」などと尋ねたりしながら関わり、その子にとって安心して落ち着いて過ごせる保育者の援助や、環境の構成を周りの先生と相談しながら工夫していきましょう。また困ったときには一人で抱え込まないことも大切です。

Q. にじいろ対象児の保護者とのコミュニケーションの取り方

A. にじいろ対象児の保護者でもそうでない子どもの保護者もコミュニケーションの取り方は、基本的には同じようにすればよいと思います。ただ、にじいろ対象児の保護者の子どもに対する思いや悩み、願いは様々ですので、その点を配慮しながら、聴く姿勢を大切にコミュニケーションを図るようにするとよいでしょう。日常の保護者との話では、園生活の中での子どもが興味をもって取り組んでいたところ、楽しんでいた遊びなどその子のよいところを伝え、一緒に成長を喜べるようにしましょう。子どもの困り感や課題などを伝える際は、保護者への配慮が必要なこともありますので管理職や先輩職員に相談してみましょう。

保護者との関わり

Q. 保護者との信頼関係の築き方や、コミュニケーションの取り方において、大切なことは何か。

A. 当たり前のことですが、毎日、自分から明るくあいさつをしましょう。また、できるだけこまめに子どもの様子を保護者に伝え、コミュニケーションをとりましょう。内容はプラス面を伝えるとよいでしょう。保護者は、わが子が園所で楽しく過ごしていることがわかると安心し、保育者や園所に信頼を寄せてもらえることが期待できます。

Q. お迎えの時など、保護者にその日の子どもの様子をどこまでどのように伝えるとよいか。また、連絡帳にはどのようなことをどこまで書くのか。

A. 子どもの発見や気付き、成長など日々の遊びや生活の中で子どものステキな部分を伝えるようにします。マイナス面や課題などはノートに書くより、口頭で伝える(伝える内容や伝え方は事前に先輩に相談しましょう)ほうがよいでしょう。

Q. 個人の様子を伝える際にぱっと出てこない子どもがいる場合の対処法と、伝えられるようにどのような工夫をしたらよいか。

A. 意識しなくても話題に上る子どもとそうでない子どもが出てしまいがちです。出来るだけ、どの子どももエピソードが見つけれられるように、日頃からメモを取るなど工夫をしましょう。

Q. 保育者が見ていなかったときに起こった出来事について、保護者に聞かれたときの対応の仕方や、けがやトラブルなど、詳細を聞かれても答えられない場合はどうすればよいのか。

A. 見ていなかったこと、わからないことは正直に伝えましょう。取り繕って話すことはかえって信頼関係を崩すことになります。ただ、わからないと答えるだけでなく、他の職員などに確認を取って後ほど改めて説明をすることを付け加えましょう。(ただしその場で確認できる場合は対応する)あまり待たせるのはよくないので、できる限り早く誠実な対応を心がけましょう。

また、けがをした時の報告は、自己判断せず必ず上司に報告・相談し、しっかりと状況を確認したうえで伝えるようにしましょう。

6 保育者育成指標 身につけたい資質をイメージし、自身を振り返ってみましょう。

キャリア ステージ	基礎ステージ	
	新規採用保育者	5年未満の保育者
保育者として身につけたい資質	保育者としての基本を身につける	保育の様々な実践のスキルを身につける
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを愛し、保育者としての基本的知識・技能・態度を身につけ園の役割を認識する。 ・保育理念を理解し、保育指導計画を立案し、実践したことを正しく記録する。 ・日々の保育に必要な環境を整える。 ・5領域や「幼児期に育みたい資質・能力」を捉える視点をもつ。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識して保育を進める。 ・保護者に対してよりよい人間関係を構築する。 ・同僚との協調性を身につけ、意欲を持って業務にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の保育の確立を目指し、専門職としての実践的知識、技術を習得する。 ・施設ごと(幼・保・認こ)における各施設の役割や機能を理解する。 ・経験を通して保育実践と理論を結びつけ、保育観の確立を図る。 ・保育の計画や記録を通して、自らの保育実践を振り返ることができる。 ・子どもの動きや活動の展開を見通して、環境の構成をする。 ・5領域や「幼児期に育みたい資質・能力」を捉える視点を意識して保育を進める。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識して計画的に保育を進める。 ・保護者を理解し、適切な対応と信頼関係を築く。 ・園全体のチームワークを大切にし、主体的に問題解決を図る。 ・課題を持って研究に取り組み、自己研鑽を図る。